

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	太地町立 太地中学校	城谷 真司
学校所在地		
〒 649-5171 和歌山県東牟婁郡 太地町太地114-2 tel 0735 (59) 2008 fax 0735 (59) 6010 e-mail taijichu@za.ztv.ne.jp @		
担当者名		役職名・担当教科
山崎 豊美		教頭
<p>〔学校の概要〕</p> <p>太地町は、紀伊半島の南端部に位置する。黒潮の影響を受けて四季を通じて温暖で、背後には緑豊かな山々がせまり、海岸部は「吉野熊野国立公園」の特別地域の指定を受けるといふ「太陽と自然」に恵まれた町である。</p> <p>本町は、人口約3,400人の小さな町である。古式捕鯨発祥の地として知られ、鯨に関わる仕事を中心に栄えてきた歴史がある。しかし、沿岸・近海漁業の衰退や商業捕鯨禁止の影響で漁業従事者の数は減少し、近年では、「くじら博物館」を中心に「鯨」をテーマとした観光の町として知られている。</p> <p>教育環境は、子ども園、小学校、中学校が各1校ずつという特殊な状況にある。この環境を生かし、PTA活動は小中1つの組織として運営されており、教職員の研究組織である「町教育研究会」も、子ども園、小、中が一体となって組織されている。</p> <p>町は、学校給食を早くから小・中学校に導入するなど学校教育に力を入れ、姉妹都市の学校間の交流も推進している。小学校は、昭和61年から長野県白馬北小学校との交流を継続しており、中学校についても、平成20年度から、太地町民が移住した歴史を持つオーストラリアのブルーム市内の中学校(セント・メアリー校)との交流を始めている。</p> <p>保護者や地域の方々の教育に対する関心は高く、児童生徒の育成面で、協力を得やすい状況にある。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年1・3年生 57名	1名 職員 8名	教室・世界遺産センター～熊野古道
実践研究テーマ		
世界遺産について知ろう・熊野古道ウォーク		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	めざせ！和歌山県博士	
〔キーワード〕		
世界遺産教育 ふるさと学習		
〔単元目標〕		
和歌山県についての調べ学習、実際の世界遺産の現地で体験活動をすることでふるさと和歌山のことを知る。		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び学習活動名/教材名)〕		
全体 5 時間 (「世界遺産調べ・現地学習・まとめ」 2 時間 )		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター … 世界遺産入門、次世代育成事業(現地学習)		
和歌山県世界遺産マスター		

## 実践に関する事項

### 〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 太地町（歴史）について知る。 2. 太地町の色々な行事に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>太地町についての基礎的な知識を身につける。</li> <li>自分の興味・関心があることを見つけ自己が町へどんな貢献をできるのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>ワークシート</li> </ul>
2	3. 和歌山県について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県について基礎的な知識を身につける。</li> <li>課題に応じた調べ方をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
3	4. ・世界遺産について学ぶ ・世界遺産について現地学習で体験し、学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産センターを訪ね、世界遺産について学習するとともに、熊野古道を歩く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義を受講</li> <li>観察</li> </ul>
4	5 学習したことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら体験した世界遺産の学習を通してふるさと和歌山について再発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
5			

### 〔単元学習の成果と課題〕

<成果> 時間を重ねるにつれ、生徒達の和歌山県に対する意識・興味が高まり、主体的に活動に取り組むことができた。とくに現地学習は世界遺産をより身近なものとし、ふるさとを再発見できた。

<課題> 2年生は修学旅行中の期間であったので、全校参加とならなかったのが残念である。また、2年生と今回の3年生は那智山～熊野古道を体験しているので、その学習との関連づけをするために、3年間を見通した学習計画にしていかなければならない。

### 〔世界遺産学習の効果〕

事前学習→現地学習→振り返り学習を通して、世界遺産とは何か、どんな種類があるか、世界遺産の大切さを実感するとともに、ふるさとの良さを感じるようになってきた。

また、実際に熊野古道を歩くことで、先人達の通った道を実際に体験できたことが素晴らしかった。

1・3年生の生徒は、熊野古道の大切さ・すばらしさを体験し、しっかりと行動することができていた。

### 〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

本校は平成25年にも、この事業を活用させていただき、今回で2回目だが、2回とも、修学旅行の期間中であつたので、全校生徒の参加・体験として、この事業を活用できなかった。

世界遺産について学ぶ機会は今中々できない。なので、今後は3年間を見通して、那智山での熊野古道体験とも関連づけて、校外学習等での活用していきたい。

世界遺産センター館内での説明を聞いてます



熊野古道 現地学習に出発



最後のお別れの挨拶です。



熊野本宮大社前で記念写真

